　補足資料

「2025年日本国際博覧会　ゲート施設基本設計業務」

業務委託内容詳細について

　本資料は別添の業務委託特記仕様書に記載の業務内容を補足するものとして、業務の詳細を下記に記す。

**１　ゲート施設基本設計**

(1) 留意事項

　　ゲート施設基本設計を行うに当たり、下記に留意し設計を行うこと。

ア　ゲート及びゲート施設に求められる各種機能・意匠性の検討

　　施設に求められる性能や各種与条件については、業務開始後協会より提示される施設コンセプト及び与条件に基づくこと。設計においては、ゲートの個数やセキュリティ設備のスペック、必要スペース等について運用方法を確認し、協会関係者とよく協議を行いながら設計を進めること。なお、ゲート施設を構成する諸室関係についても同様である。その他、博覧会会場に来場者を迎え入れる施設として、外装やサイン等の意匠性にも配慮すること。

また、業務においては、協会の他、会場デザインプロデューサーの監修によりレビューや意見を受け、それらを参照しながら業務推進すること。

イ　建設コスト、スケジュール

建設工事費の縮減に繋がる提案を積極的に行うこと。また、プレハブ建築の活用等、設計及び工事期間を短縮する経済的・合理的な手法を検討すること。

ウ 仮設建築物としての配慮

　　　 期間を限定して開催されるイベントである事を考慮し、内装に係る部分も含め、リースやリユース・リサイクルが可能な工法や建築資材を積極的に採用し、環境に配慮した設計とすること。

エ 環境負荷低減

　　　 各種資材についてはリユースやリサイクルが可能な資材や素材を積極的に採用し、環境に配慮した設計とすること。合わせて自然素材の利用についても検討すること。

オ 建築の軽量化

　　　 計画地が埋立地であることを勘案し、建築の軽量化を図ること。基礎についても排土バランスを考慮した浮基礎等とし、かつ現状復旧にも配慮した計画とすること。

　　カ 工事区分

　　　 各施設工事区分の考え方は下記に示す。協会発注外工事や展示工事等との区分の詳細に関しては業務開始時に協会より示すが、業務を進める中で生じた疑義については監督職員と協議し、漏れ等がない様業務を進めること。

(2) 業務の項目

ゲート及びゲート施設

〇棟数と規模、その他仕様について

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| タイプ | 棟数 | 合計面積（㎡） |
|  | | |
| a.　ゲート及びゲート施設（東エントランス）  b.　ゲート及びゲート施設（西エントランス）  合計 | 1  1  ２ | 11,000  16,850  27,850 |

・各棟の面積は会場の入退場を管理するゲートにかかる屋根面積とゲート施設床面積の延べ面積を示す。

・ゲート施設には案内所や発券所の他、警備センターやボランティアセンター等の各種管理施設機能も有する。必要諸室の詳細等については、業務開始後協会より提示する。

〇工事区分概要（案）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 工事区分 | 協会工事 | 協会以外工事 |
| 建築工事（外装）  建築工事（内装）  電気設備工事  セキュリティ、  情報通信設備  給排水衛生設備工事  空調換気設備工事  防災設備工事  昇降機設備工事  外構工事  サイン工事（外構） | 建築工事全て  建築工事全て  電気設備工事全て  セキュリティ、情報通信設備全て  給排水衛生設備工事全て  空調換気設備工事全て  防災設備工事全て  昇降機設備工事全て  外構工事全て  サイン工事全て | なし  なし  なし  なし  なし  なし  なし  なし  なし  なし |

・協会や会場デザインプロデューサー、会場運営プロデューサー等の要望・意見を踏まえ、検討や調整を行うこと。

・建築工事（外装）にはゲートのデザイン等に伴う工作物も含むものとする。詳細は具体的に計画が進み

次第監督職員と協議すること。

・本業務にゲート設備（金属探知機等）の設計は含まないが、ゲートの設置必要スペースや必要設備容量、

運営方法等を踏まえた設計を行うこと。また、人流や滞留についても、協会からの検討結果を受け、必要

スペースの検討を適宜行うこと。

　　　・防災設備については機械設備の他、電気設備についても含むものとする。

・人流、滞留を含めた動線計画やセキュリティ計画等含めた施設運営について協会等関係者と良く協議

し業務を進めること。